

お話を伺いました



一般社団法人  
ニューマチヅクリシャ  
理事  
横溝 惇さん

「まちのインフラやそこに住まう人々、地域に根差す文化を起点に、デザインや食、アートの技術を用いながら新しい未来を描き出す」をコンセプトに、多摩ニュータウンで活動する6名で2019年に結成されたニューマチヅクリシャ(2021年に社団法人化)。多摩ニュータウンを主な活動場所に、多数のプロジェクトの企画・運営に関わる。

ランタンフェスティバル



©hifumi studio

夜市プロジェクト



©コムラマイ

一般社団法人  
ニューマチヅクリシャ



レスキュープロジェクト



コミュニティガーデン

# カルチャーが生み出す 出会いとコミュニケーション 新しいまちの未来に向かって

人も経済も元気で魅力ある地域社会の形成に寄与する文化芸術活動。多摩地域でも、新しい文化の創出や、創造性を発揮できる地域づくりの取り組みが行われています。都心部に比べ高齢者率の高い郊外都市において、文化芸術活動は、その地域にどう作用するのでしょうか。多摩市の落合団地商店街を起点に、デザインや食、アートなどの手段で、都市のなかに新しいまちの未来を描き出す、一般社団法人ニューマチヅクリシャの横溝惇さんにお話を伺いました。

## 日常の風景にアプローチする 新たな視点のきっかけづくり

ニューマチヅクリシャは、多摩ニュータウンの落合団地商店街で建築事務所を営む横溝さんのほか、同事務所の建築家、地域に人脈や文脈を広げるベーカーリー店主、都市の課題解決を行うディレクター、様々なレーターなど、多分野のメンバーが集まり運営されています。これまでに永山団地名店街でのワークショップやアーティストと団地を巡るツアー、豊ヶ丘・貝取商店街エリアでの「ランタンフェスティバル」やマルシェ形式の夜市プロジェクト、コミュニティガーデン(※)を通じて身近な暮らしを見直すきっかけづくりのプロジェクトなどを手掛けてきました。

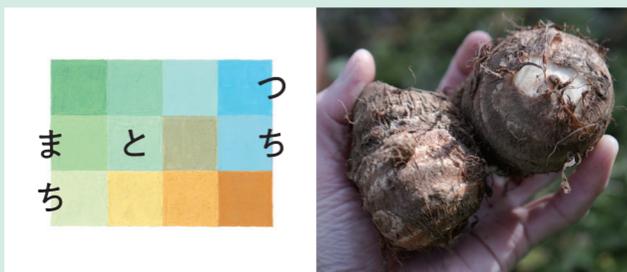
横溝さんは、ニューマチヅクリシャの取り組みの方向性として、「一

過性のイベントではなく暮らしに密着したもの」「カルチャー」という意味での文化的アプローチ」という2つの点を挙げました。

「コロナ禍になったばかりの頃に行った『レスキューリプロジェクト』では、市内にある恵泉女学園大学で対面授業ができず余ってしまったキュウリの苗300株を、近隣の方たちに販売しました。そこでは、大学の先生にオンラインで育て方を指導していただき、SNSで成長の過程や収穫を共有し合うことで、購入してくれた方たちとコミュニケーションをとっていきました。また、豊ヶ丘商店街にあるポケットパーク(小規模の公園)でのコミュニティガーデンの取り組みでは、商店会と大学と住民の方々とハーブを植えたりベンチを作ったりして、継続的なプロジェクトになっています」

地域外からも多くの人が集まるようになったランタンフェスティバルでは、準備期間から地域の人たちが参加できるような仕組みをつくり、さらにアーティストやクリエイターが活動する姿がまちのなかで見られる機会を創出し、地域の人たちとの出会いや交流を生み出しました。「日常的にまちのなかでいろいろな仕事や活動に触れられる状況をつくり出すことを大事にしています」と横溝さん。

## 農家と耕す新たなムーブメント つちとまちPROJECT



多摩ニュータウン周辺に点在する農地。そこで農業を営む新規就農者たちとともにニューマチヅクリシャが立ち上げた、新たな「農」のプロジェクトが始まります。地域の人たちが家庭でコンポスト(家庭から出る生ごみなどから堆肥を作ること)に取り組み、できた堆肥を農家が活用したり、採れすぎてしまった野菜を地域の人たちに販売するなどの仕組みづくりを準備中。地域の消費者が身近な畑に意識を向け、いつもと違う視点でまちのことを考えるきっかけになることを目指すプロジェクトです。

詳しくは <https://www.instagram.com/new.machi>

れまで「ベッドタウン」として暮らしていた地域を「活動の場」に変えていくクリエイターも、この2、3年で現れてきたといえます。地域におけるカルチャーの役割について、横溝さんは次のように話しました。「例えば、お酒を飲み立ち寄り場所がまちのなかにあったり、音楽やスケボーを教えてくれる人がいたりすると、そこでいろいろな人たちがつながることができず。また、ちよつと変わったものやアート作品が日常の風景のなかであれば、それを見ながら対話が生まれたり、まちを見る視点がかわるきっかけになります。カルチャーは、それを見る人たちに新たな視点や思考をもたらし力を持っていると感じています」

※地域の公園や未利用地を使い、地域の人たちが協力して作り上げる植栽空間

## 場所の新しい価値を見つける アートプロジェクト たまのニューテンポ

「たまのニューテンポ」は、多摩ニュータウンにある遊休不動産や街の隙間を一時的に展示場やイベント会場として活用し、その場所の新しい価値を見つけていくアートプロジェクト。空間活用のイメージを固定化せず、アーティスト、キュレーターと地域の人々が共同し、少しずつその可能性を見つけていくことで、長期的なまちづくりの基盤となることを目指しています。訪れた人々と一緒にその場所の新しい価値を見つけることで、いつか新しい店舗を生み出したり、まちのテンポを楽しく変えていくかもしれません。

詳しくは <https://www.newmachi.org/home>



©コムラマイ